

表面被覆工 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

工法比較表対象技術
 新規対象技術(調査中)
 削除技術

令和4年6月現在

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

(注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類1 Lv.2	分類1 Lv.3	分類1 Lv.4	技術の位置づけ	活用 効果 評価	活用 状況 (本省)	掲載期間 終了技術 (終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備考	NETIS HP リンク先(注)	
30	トンネル小片はく落対策工「FF-TCC工法」	KT-190047	A	本技術は、高伸度型シートとウレタン樹脂を用いたトンネル小片はく落対策工法で、従来は、はつり落とし工や断面修復工等の補修工法で対応していた。本技術の活用により、はく落魂への追従性が高く、透明樹脂により変状確認がし易いため、安全性および施工性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190047%20	
31	ライフテックス水性はく落対策工法	KT-190117	A	本技術は、全工程を非危険物で構成した水性はく落対策工法で、従来は危険物を使用したはく落対策工法で対応していた。本技術の活用により施工時の火災への安全性が向上し、作業員の人体への安全性、周囲環境への負荷を低減できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	断面修復工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190117%20	
32	補強型コンクリートはく落防止工法	QS-200020	A	本技術は、表面保護工(コンクリート)に関する技術である。ポリイソシアネート化合物と、活性水素を持つアミン化合物をスプレーガン内で混合させ、化学反応によりポリウレタン樹脂を生成し、コンクリート表面に強靱な被膜を形成し、長寿命化を実現する工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-200020%20	
33	コンクリート保護シート「KYÖZIN」	KT-200107	A	本技術は、コンクリート構造物の劣化を防止する高耐久性塗料をシート化したコンクリート保護シートで、従来はコンクリート保護用の表面被覆塗料で対応していた。本技術の活用により、構造物の表面に保護シートを貼るだけの施工となるため、施工性の向上が図れる。	製品	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200107%20	
34	コンクリートプロテクト工法	KK-200050	A	本技術は、コンクリート表面にポリウレタン樹脂を塗布し耐久性・防水性・耐摩耗性を向上させる工法技術であり、従来はエポキシ樹脂とガラスクロスを用いた保護工法(手塗り工法)であった。本技術の活用により経済性、品質、施工性向上、周辺環境影響抑制、工期短縮が期待できる。	工法	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-200050%20	
35	ボンドVMクリア工法	KT-210065	A	本技術は、強靱で耐候性に優れた透明なウレタン樹脂を用いたコンクリート片剥落防止工法で、従来はビニロンネットと不透明な樹脂で対応していた。本技術の活用により、下地の視認、工期短縮が可能となり、安全性、経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210065%20	
36	下地視認可能型省工程剥落防止工法 ダイナミックレジックリアタフレーションイック	KT-210087	A	本技術は特殊透明樹脂によりコンクリート片のはく落を防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後に下地の劣化状況を視認確認できるため、点検及び維持管理が容易となり、また工程も短縮されているため、経済性も向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210087%20	
37	ポリウレタン樹脂を用いたコンクリート構造物の機能保持・向上技術「タフネスコート工法」	QS-210065	A	本技術は表面保護工に関する技術である。タフネスコートをコンクリート構造物表面に吹き付けることにより、剥落防止、貯水性確保、耐久性及び耐衝撃性向上といった機能をもたらすことができる。本技術の活用により、維持管理コストの低減並びに長寿命化を図ることができる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-210065%20	
38	コンクリート構造物補修材料EXGリアベアリリース	KT-220034	A	本技術は、補修部分が湿潤状態でも施工が可能な水性エポキシ、水性アクリル製の補修材で、従来は表面被覆工(コンクリート保護塗装CC-B)で対応していた。本技術の活用により補修部分は、湿潤面での乾燥、塩害面での塩分除去洗浄が不要となる為、工程が短縮する。	材料	コンクリート工	その他									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220034%20	
39	コンクリート打放し用の仕上げ材「シエルトクリヤ」	KT-220060	A	本技術は、コンクリート構造物の表面を水分や塩分等から保護する水性のクリヤ塗料で、従来は、シラン系表面浸材で対応していた。本技術の活用により、コンクリートの中性化および塩分の浸透を抑制する効果が高く、低VOC材料であるため、品質および安全性の向上が図れる。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220060%20